

「9割がストレス、5割以上が抑うつ状態の疑い」  
**「復興」に殺されてたまるか！**

· 2012.4.5 河北新報

# 職員の9割ストレス自覚

「お前がお前で、お前がお前のままでいいんだよ。お前がお前で、お前がお前のままでいいんだよ。」  
「お前がお前で、お前がお前のままでいいんだよ。お前がお前で、お前がお前のままでいいんだよ。」

最後に、農業をスムーズに進めるために、  
「あいた」と書いた木札を  
のぼり旗として、  
左42、右38、高さ40cm  
だ。「ねむいた」の。の。  
スマレードを感じた鶴田(鶴田)

### 5割超に抑うつの疑い

市原市議は「燃え対応はされ、燃焼してした状況が何よりも無理な燃焼」とした例を教訓された。燃焼運行のために、再任職員詰めの人の燃えに行き、13600人（分40%）が回復した。

畠田太輔は、初期対応をめぐる、当面の職員による職員の健康状態を聞いたところ、約半数が何らかのアレルギーを感じたと答えていたらしい。毎日の会議の延びや、ある職員が回復期の病状を超えた。市立総合病院、ベトナムなどからくる在日ベトナム難民談話部屋、11月の東日本大震災の影響で、定期的なメンタルヘルスカウチングを受けた。

「職員の9割が業務でストレスを感じ、抑うつ状態の疑いがある職員も回答者の5割をこえた……」

これは仙台市が昨年6—7月、市役所の正職員と再任用職員に対して行ったアンケート調査の結果です。この現実は3・11から一年以上たった今も変わっていません。今も多くの中間が「メンタル」に苦しみ、病休や自主退職に追い込まれています。仙台だけではありません。今年3月、『福島民友』は福島県の市町村職員の現状を「もう限界！業務多忙、目立つ精神疾患」と報じました。

連日帰りは終電、土日も出勤、仲間のことを考えようにも身動きがとれない・・・。これが3・11から一年以上たった被災地・仙台、福島の自治体職場の現実です。

自治体労働者は自ら被災しながら労働者全体の生活や社会保障や福祉を支えてきました。この自治体労働者の誇りを逆手にとって、復興を口実にして切り離るまで働くを、「メンタル」で病休に追い込み、命まで奪っても仙台市当局は平氣である。なぜ、こんなことがまかり通っているのでしょうか！？

# 仙台市丸ごと外注化で9割非正規職化をねらう 「復興特区」攻撃をうち破ろう！

経団連は昨年3・11から2ヶ月後、私たちが被災地の現実と必死に格闘している最中に、被災地の賃金を「アジア並み」に引き下げる「復興特区」の導入を打ち出しました。その決定的テコとして外注化による正規職の解雇と9割非正規化を打ち出したのです。

村井宮城県知事と奥山仙台市長は、この「復興特区」を率先して推進する復興計画を打ち出しました。

仙台市当局が復興を日実にすり切れるまで働きさせて

平氣でいるのは、仙台市を丸ごと外注化し、9割の労働者を非正規職労働者に置き換えて「アジア並み」の賃金に引き下げ、労働組合を解体するためなのです。仙台市が進めている「復興特区」は職員全員に対する解雇攻撃です。

復興特区の下で労働者は生きられない！自分が我慢の限界のときは、みんなが限界のときです。

職場から声を上げ、この現実をうち破りましょう！

# 橋下・大阪市長の「市職員2万人解雇」宣言を許すな！ 自治体労働者は胸を張って団結しよう！闘おう！

資本主義は歴史的な危機に直面しています。全世界の独占資本は正規労働者を大量解雇して、9割を非正規職に叩き込み、コストを極限的に切り下げる資本間競争に勝ち抜く新自由主義政策に突き進んでいます。

最大の激突点は、公務員労働者に対する外注化・全員解雇＝9割非正規化です。民主党・野田政権はその突破口に仙台市・復興特区と大阪市・橋下維新の会を据えました。

橋下・大阪市長は「大阪市職員4万人を4年間で半減させる」方針を打ち出しました。地下鉄・市バス、病院、下水道、ゴミ収集・焼却、保育所・幼稚園などの現業職場については丸ごと民営化・外注化で1万6000人を全員解雇。区役所職員、学校の教員も業務委託・統廃合などで1350人削減。これで2万人を解雇するというのです。

そのために、橋下は「ギリシャを見てください。公務員・公務員組合をのさばらせておくと国が破綻する」

と言って市職員労働組合の解体に踏み込んできました。

ふざけるな！100兆円もの国家財政赤字を生み出したのは一体誰なのか？公共投資でボロ儲けしてきたのはゼネコンや独占資本です。財政赤字の一切の責任は資本家とその政府にあります。

4月、「橋下大阪市長を絶対に許すな！」と現場組合員1000名が大阪市庁舎前で橋下弾劾集会に立ち上がりました。ギリシャでも、スペインでも、フランスでも、公務員労働者がつぎつぎとストライキに立ち上がっています。

自治体労働者は胸を張ろう！問われているのは労働組合です。大阪市職労をめぐる攻防と、仙台市職労をめぐる攻防は、全労働者の命運をかけた攻防となりました。橋下・大阪市長、奥山・仙台市長が進める自治体丸ごと民営化＝全員解雇攻撃に対し、絶対反対を貫いて阻止しよう！

## 全国の仲間は仙台市役所の仲間を待っている！ 6・10国鉄全国集会に参加し、時代を変えよう！

国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）は20万国鉄労働者を全員解雇した国鉄分割民営化攻撃とストライキで闘い、30年に渡って解雇された仲間を守り抜いてきました。そして、民営化されたJR東日本の外注化攻撃を10年間にわたって阻止し、正規職の職場を守ると共に、非正規職化を阻止しつづけています。

動労千葉は民営化・外注化と真っ向から立ち向かうならば、組合員の団結を守り、青年組合員を拡大し、勝利出来ることを示してきました。

JR東日本と民主党・野田政権は、社会全体を全員解雇・9割非正規化にたたき込むために、外注化を阻止する最大の拠点である動労千葉の解体をかけ、10月1日、JR東日本の全面外注化を宣言しました。

動労千葉は組合の存亡をかけて10・1全面外注化を阻止する大決戦を決断しました。

いよいよ、日本労働運動は国鉄決戦＝JR外注化阻止決戦を最大の基軸とし、大阪・仙台攻防、そして、原発再稼働を絶対に許さないフクシマの怒りが一体となって民主党・野田政権を打倒し、新自由主義をうち破るときを迎えました。

6・10国鉄集会は10・1JR全面外注化を阻止し、大阪・仙台・反原発フクシマの怒りをひとつに結集し、新自由主義をうち破る集会です。全国の仲間は仙台市役所で働く仲間を待っています！

6・10国鉄全国集会に仙台から大挙参加をかちとり、時代を変えよう！青年の未来を切りひらこう！

